

指扇小だより

学校教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたかく

8・9月号 令和4年8月26日 第5号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 429名 女子 443名 計 872名

やり抜く力（GRIT）～あきらめない大切さ～

校長 引間 陽子

今年の夏は猛暑で始まり、新型コロナウイルス感染症の猛威も心配される中、夏休みがスタートしました。制限のかからない夏休みが少しでも有意義になるように、各家庭でも、細心の注意を払いながら工夫して過ごしたことでしょう。今月の20日には3年ぶりに、地域イベント『指扇まつり』が滝沼川第2遊水地、指扇公民館、指扇小学校体育館を会場に開催されました。本校体育館では、本校吹奏楽部を皮切りに、指扇北小学校合唱部、指扇中学校吹奏楽部の演奏が披露され、子どもたちの活躍が光りました。3会場に市民の皆様が沢山訪れ、盛大なものとなりました。



『指扇まつり』指扇小学校吹奏楽部演奏

まだまだ侮れないと感じる感染症の影響は大きいのですが、今年の夏の甲子園は予定どおり実施され、多くの球児が懸命に力強くプレーし、頂点を目指しました。仙台育英が春夏通じ4回目の挑戦で初優勝、東北勢初の快挙と話題になり、心に残る出来事の一つとなりました。第104回全国高校野球選手権は22日、甲子園球場で決勝戦を行い、仙台育英（宮城）が下関国際（山口）を8対1で下し、東北勢として初優勝を飾ったもの。試合後、仙台育英の須江監督がグラウンドでのインタビューで目に涙を浮かべた表情で「100年開かなかった扉が開いたので多くの人の顔が浮びました」とこの優勝の意義を語った際に、紡いだ言葉がSNS上で話題になり、ツイッターでは「監督の言葉」というワードがトレンドに浮上しました。「涙が止まらない」「感動した」と共感の声が寄せられました。高校3年生が感染の広がった春に入学してきたことを踏まえたコメントで「入学どころか、中学校の卒業式もちゃんとできなくて、僕たちが過ごしてきた高校生活と違う。青春って密なのにダメだダメだと言われて、どこかで止まってしまう中でもあきらめないでやってくれた。（中略）全国の高校生のみんながほんとうによくやってくれて、今日の下関国際さんもそうですし大阪桐蔭さんとか目標になるチームがあったから暗暗の中で走っていた。全ての高校生の努力の結果である。全国の高校生に拍手を」とエールの言葉で締められていました。

思うような生活が送れなかったのは野球部員に限ったことではないことです。世の中全体が感染拡大の影響のため、あきらめること、考えこんでしまうこと、留まってしまうことが多い中、この出来事に触れて心が温かくなりました。本校はGRIT（やり抜く力）を備えた「やり抜く子」の育成を教育目標に掲げていますが、目標達成を目指すモットーの一つ「情熱と粘り強さ」を文字通り具現化しているような出来事だと感じました。これらの「あきらめない」姿に再度、意義を感じました。本校ではこのGRITに取り組み始めて3年目となりますが、今年度は“やり抜く力でWell-being（ウエルビーイング）を手に入れよう”を目標に校長講話で話をしたり『GRIT NEWS』の定期的発行と子どもたちへの配布を行ったりするなど様々な活動に取り組んでいます。一人ひとりが心も体も元気なこと、みんなに認められていることが叶い、益々やり抜く子に成長していくように、なりたい自分になることで幸せになろうを合言葉に様々な活動を通して推進していきます。

さて、本日から2学期が始まりました。子どもたちの元気な声が学校に戻って、各教室からは子どもたちの楽しかった夏休みの報告や再会を喜ぶ様子が伝わってきました。今学期の教育活動においても、感染症拡大防止対策の徹底の下、子どもたちが一人ひとり安心して学習や活動に取り組み、充実した学校生活になるように教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、よろしくお願ひいたします。

7月10～12日



豊かな体験学習 5年たかつえ自然の教室